

令和8年度

鹿児島大学農学部学校推薦型選抜 I 入学試験問題

試験科目	小論文
------	-----

試験日時 令和7年11月18日(火)
9時00分～11時00分

(注意事項)

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中は開かないこと。
2. この問題冊子は、表紙と白紙を含む計5枚である。試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 受験番号を必ずすべての解答用紙の指定された箇所に記入してから、解答を始めること。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に横書きで記入すること。
5. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

問1 次の文章を読んで、以下の設問（1）と設問（2）に答えなさい。

「文明は農耕や牧畜による定住によって始まり、やがて都市や国家へと発展していった」世界史の教科書では、長らくこのような記述が定説とされてきました。楔（くさび）形文字のメソポタミア、ピラミッドのエジプト、モヘンジョダロなどの都市遺跡をもつインダス、甲骨文字の中国といったいわゆる「四大文明」は、いずれも大河の流域に栄え、農耕によって生まれた豊かな余剰生産物を土台に誕生したとされています。それまでの狩猟採集の生活から脱し、農耕や牧畜によって食料を安定的に得られるようになったことで、人々は組織的な社会を築いていった。これが長らく信じられてきた「文明誕生のシナリオ」でした。

ところが近年、考古学の世界では、それまで信じられてきた常識がひっくり返る大発見が続いています。その先駆けとなったのが、トルコ南東部で発掘されたギョベックリ・テペ（Göbekli Tepe）、トルコ語で「太鼓腹の丘」を意味する世界最古の巨大遺跡です。しかも、それがつくられたのは、今から1万1000年ほど前であり、人類がまだ狩猟採集民として暮らしていた新石器時代前半のものでした。

ギョベックリ・テペからは、都市や王といった権力の関与や、文字の痕跡は見つかっていません。けれども、重機どころか金属の道具すらなかった時代に、巨大建造物を築くには、大人数の協力と計画、技術や知識の共有が不可欠だったはずです。従来の考え方では、こうした高度な社会活動は農耕によって余剰が生まれたことで始まったとされてきました。しかし、ギョベックリ・テペの発掘が示しているものは、狩猟採集民もまた、社会的に複雑な営みを行っていたという事実だったのです。もちろん、当時は長く続いていた氷河期が終わり、気候が温暖になったことで動植物が増え、恵まれた自然環境が彼らの社会活動を後押ししたという側面はあるでしょう。それでも、古代メソポタミア文明の初期の神殿に匹敵する規模の建造物を狩猟採集民が築いていたなどとは、誰も想像さえしていませんでした。

ギョベックリ・テペの発見は、私たちが当然と考えてきた文明観に大きな問いを投げかけました。文明は「定住→農耕・牧畜→都市→国家（権力の発生）」という一本の道を進んできたのではなく、もっと多様で、複線的に展開してきたのではないかと。

〔出展〕NHKデジタルマガジン 3か月でマスターする 古代文明 10月号

<https://mag.nhk-book.co.jp/article/79132> 2025年11月11日閲覧 より抜粋および一部改変して利用

設問（1）ギョベックリ・テペのような例を例外として考えた場合、一般に、狩猟採集生活から農耕生活に移行することで、人間の生活や社会に起こったと考えられる変化を、300字以内で書きなさい。

設問（2）もし農耕が起こらず、人類が狩猟採集社会のままで現在までの時間が流れた場合、人間社会はどのようなになっていたろうか？あなたの考えを自由に考察し、解答欄に300字以内で書きなさい。

問2 微生物は、有機物を分解してエネルギーを得る際に、その過程で特有の代謝産物を作り出します。人間は、この微生物の巧みな働きを古くから生活に取り入れ、これを「発酵」と呼び様々な形で役立ててきました。このことについて、設問（1）と設問（2）に答えなさい。

設問（1） 私たちの食生活では、微生物との関わりにおいて「発酵」と「腐敗」があります。両者の違いについて100字以内で書きなさい。

設問（2） 「発酵食品」を1つ挙げて、関与する微生物や原料、製造方法、主な代謝産物、特徴など知っていることを400字以内で書きなさい。